

コメディリリック第5回「貧乏放し飼い」

「情熱、そして誠実さ」

登場人物

輝彦

野彦

リーサ

テオ・ポー

三木谷

ペイリー・チャイルド

前澤

シロスコフ

※輝彦、板付き

【L・明転】

リーナの墓の目で手を合わせる輝彦

※リーサ、登場

リーサが来たことでその場を離れようとする
輝彦

リーサ 「ちよつと待って」

立ち止まる輝彦

リーサ 「あなた、輝彦さん？」

振り向く輝彦、リーナと勘違いする

輝彦 「リーナ！？リーナ！」

リーサ 「ごめんなさい！私はリーナじゃないの。私はリーサ。リーナは私より一時間だけ早くこの世に生まれた姉よ」

輝彦 「驚いたな…まさか、リーナにこんなそ

っくりな妹がいたなんて」

リーサ 「お参りに来てくれたの？」

輝彦 「近くに用があったから」

リーサ 「そう。じゃあ、今日は私はいいかな」

輝彦 「じゃあ」

リーサ

「ちよつと待ってよ。もう少し話聞かせ
てよ。リーナはいつもあなたの話ばかり
していたわ」

輝彦

「リーナが？」

リーサ

「ええ。すごく誠実で優しい方だつて。
ピタツとしたTシャツ以外は最高だつ
て」

輝彦

「そんな」

リーサ

「リーナの言うとおりね。だから、リー
ナが死んだ時はあなたに伝えなきゃって
思ってたんだけど見つからなくて…
今までどこにいたの？」

輝彦

「…穴を掘って、埋めていた。それで逃
げてきた」

リーサ

「そう」

輝彦

「君は何をしてるだ？」

リーサ

「リーナと一緒に。娼婦よ。女はこの街じ
やこうやって生きるのが一番楽なの」

輝彦 「そうか」

リーサ 「あなた逃げてるって言ってたわね」

輝彦 「ああ」

リーサ 「これからどうするの？」

輝彦 「これから…」

リーサ 「日本人よね？日本に帰るの？」

輝彦 「いや日本には帰れない」

リーサ 「仕事は？家はあるの？」

輝彦 「それは…」

リーサ 「良かったら、家に来る？」

輝彦 「いやそれは悪いよ」

リーサ 「別にいいわよ。ほら」

輝彦の手を引き家へ連れて帰るリーサ

※輝彦、リーサ、はける

【し・暗転】

2. リーサの家・夜

※輝彦、リーサ、板付き

【し・明転】

座って話す二人

リーサ 「へー日本から派遣にね」

輝彦 「正直驚いたよ…カワサキがこんなこと
になってるなんて」

リーサ 「日本だったところのカワサキのことは私
は知らないからどれだけひどくなつたの
か分からないけど」

輝彦 「リーサは絶望していた僕にとつての光
だった」

リーサ 「…ねえ、まだどうにかならないか
な？」

輝彦 「え」

リーサ 「この街。もう少し涙の数を少なくでき
ないかな？ほんの少しだけでもいいの」

輝彦 「…実は一つアイデアがある」

リーサ 「アイデア？」

輝彦 「うん。でもそのためには…お金が必要
だ」

リーサ 「いくら」

輝彦 「かなりの額。とても僕の方では…やっ
ぱり無理だ。諦めよう」

リーサ 「諦めないで。私も協力する」

輝彦 「でも、どうすれば…」

リーサ 「悪いことをしましょう」

輝彦 「悪いこと？」

リーサ 「悪いことを成功させる秘訣は分かる？」

輝彦 「いや見当もつかない」

リーサ 「情熱、そして誠実さ」

【L・暗転】

※リーサ、はける

※三木谷、前澤、輝彦、板付き

【L・明転】

三木谷 「今君が話したことは……つまり……ネズミ講だよな？」

輝彦 「そうです」

三木谷 「帰る」

輝彦 「待ってください！話を聞いてください

い！」

三木谷 「ふざけんな！何でねずみ講の勧誘だと

分かって話を聞かないんだ！」

輝彦 「（土下座をする）どうかお願いします

す！話を聞いてください！」

三木谷 「馬鹿にしてんのか！」

前澤 「三木谷さん……聞いてあげましょう」

三木谷 「え？」

前澤 「こんなに頭を下げてるんですよ。少し

くらい話を聞いてあげましょう」

三木谷 「いやねずみ講の勧誘ですよ？」

前澤 「君、ねずみ講の勧誘するのは本当の話

かね？」

輝彦 「はい！今からする話はねずみ講の勧誘

の話です！」

前澤 「それはいいねずみ講の話か？悪いねず

み講の話か？」

輝彦 「いいねずみ講の話です！」

三木谷 「ねずみ講にいい悪いもねえだろ」

前澤 「だったら、聞こうじゃないか」

輝彦 「ありがとうございます！」

三木谷 「いやいや、ええ？」

前澤 「三木谷さん、彼を信じてあげましょ

う」

三木谷 「信じるも信じないもなあ……」

輝彦 「単刀直入に言えば、今からねずみ講の話をします。とりあえず500万を用意

してください。こちらが入会金となりま
す」

三木谷 「それでどうなるんだよ」

輝彦 「あとはねずみ講と調べて頂くと大体の
仕組みが載ってます」

三木谷 「帰る」

輝彦 「お願いします！お願いします！」

三木谷 「話にならない」

輝彦 「騙されてください！」

三木谷 「お願いされて騙される奴がどこにいる
んだよ」

※リーサ、登場

リーサ 「あなた」

輝彦 「馬鹿、寝とけって言っただろ」

リーサ 「大丈夫？」

輝彦 「大丈夫だよ。この人達もいま、ねずみ
講に加担するところだ。ねえ？」

三木谷 「いや…」

前澤 「ええ。今からねずみ講に加担するところ
ですよ。奥さん」

リーサ 「そうですか！…主人をよろしくお願い
致します」

※リーサ、はける

輝彦 「うちの嫁は身体も弱ってしまって…今
の嫁の楽しみと言えば僕が人をだまして
ねずみ講に加担させることだけなんで
す」

す

三木谷 「どんな楽しみだよ」

輝彦 「お願いします！どうか…どうか…この
通りです！」

前澤 「騙されましようよ」

三木谷 「はあ？」

前澤 「だって、こんなに情熱をもって、誠実
にお願いしてくれてる…」

三木谷 「ねずみ講の話ですからね」

前澤 「こんな人、他にいませんよ」

三木谷 「でしようね！」

輝彦 「どうかよろしくお願い致します！」

※リーサ、登場

リーサ 「あなた」

輝彦 「リーサ」

リーサ 「無理しないで。私のために…けほけ
ほ」

輝彦 「馬鹿！寝てろ！」

リーサ 「この人はね…馬鹿みたいに正直で誠実な人なんです。ねずみ講。確かに間違ってます。分かってます。でもね、この人が誠実に人をお願いしている姿が私は大好きなんです。だから止めないんです。誰かが決めた法律やモラルじゃ私の喜びは生まれない。この人のねずみ講が成功する。それが一番の私にとっての薬です」

輝彦 「リーサ」

リーサ 「けほけほ」

輝彦 「リーサ。奥で寝てなさい」

リーサ 「あなた。今日がダメでも明日騙しましょう？」

輝彦 「お前には明日が来るかどうか…」

リーサ 「あたしがいなくなっても…ねずみ講はやめないで」

輝彦 「ああ」

泣き出す前澤

前澤 「三木谷さん、いい加減折れてください！」

三木谷 「嫌でも…」

前澤 「ここまで言われて…あんたは人でなしか！」

三木谷 「ああもう…わかったよ！500万ドブに捨ててやらあ！」

輝彦 「ここにサインをお願いします」

三木谷 「おらあ！」

輝彦 「ありがとうございます！」

リーサ 「ありがとうございます！」

三木谷 「この金、戻ってくるんだろ？」

輝彦 「戻ってきません！ねずみ講ですから！」

三木谷 「だろうな！」

前澤 「奥さん、あなたの旦那は誠実な人だ」

リーサ 「…はい！」

※三木谷、前澤、はける

輝彦 「イエエエエ！」

リーサ 「イエエエエ！」

【し・暗転】

—了—